

# 市長の施政方針に対する 代表質問

本定例会では、市長が19年度にどのような事業を行うのかという施政方針を説明し、それに対し各会派の代表から多彩な質問が出されました。ここでは、その主な内容をお知らせします。

平成十九年度予算案の特徴について

**問** 新年度予算の特徴の第一として、大規模事業への取り組みを本格化させるための積極型の予算ということですが、その理由について伺います。

**答** 市政の基本目標は、合併後新しく誕生した鴻巣市の土台を築くことです。また、新市全体の

確かな基盤と骨格づくりを進めていかなければなりません。

さらに、本市における大規模事業が、今、まさに本格的な取り組みの時期を迎えています。

これらの事業を含む、「施策別戦略的・重点的プロジェクト事業」に関し、その進捗状況の総合的な把握及び今後の課題等についての整理・検討を行うことを指示しました。これらの作業は、総合振興計画の策定作業及び十九年度予算の編成作業に先立って行ったもので、この結果を受けて、最終的に第五次鴻巣市総

合振興計画を策定しました。そして、それに続き、実施計画並びに十九年度の予算の編成を行ったものです。

予算編成に当たり、目標としたところは、検討・整理作業を行った十五事業のうち、本格的に着手している、鴻巣駅東口A地区市街地再開発事業、北鴻巣駅西口土地区画整理事業、吹上駅北口駅前広場整備事業、工業団地通線整備事業、広域循環バス運行事業、上谷総合公園整備事業、花と音楽の館かわさと整備事業、などの事業を最優先に予算化することでした。その結果が十九年度の予算案であり、また、その十九年度予算案を積型予算とした主な理由です。



花と音楽の館かわさと 花久の里

大規模事業の後年度負担と中期的税収予測は

**問** 平成十九年度予算は、大規模事業への取り組みを本格化させ、それらを完成させる積極型、さらに合併特例債やまちづくり交付金等あらゆる財源を活用した財源活用型予算であるとのことですが、予定の事業遂行による後年度負担および三

〜五年の税収動向の予測をお聞かせします。

**答** 十九年度予算で計画している大規模事業等により、起債残高は十八年度末残高に比べ、二億円程度増加する見込みです。

今後も合併特例事業を進めることで、公債費の負担増は続くと考えられ、償還財源の確保についても厳しい状況が続くと予想しています。事業内容の精査と合併特例法のメリットを生かす、後年度負担の圧縮を進めます。

十九年度の税収は、税制改正や景気回復の影響もあり大幅増ですが、団塊世代が年金生活者

になることで、個人税は緩やかな伸びになると考えます。法人税、固定資産税は共に伸びが期待できると予測しています。

福祉政策にも積極型予算を

**問** 十八年度予算で特徴として掲げられていた「福祉サービス向上」が新年度予算から消えました。市民福祉の向上を図ることは市政の最大のテーマです。考えをお聞かせします。

**答** 急速な少子高齢社会の進展や社会環境の変化に対応する先駆的施策として、十五歳までの子ども医療費給付事業を継続します。新規事業では、不妊治療費の助成・地域福祉計画策定事業・在宅高齢者緊急時短期入所サービス事業を予定しています。

児童福祉・子育て支援では保育所新設一カ所と定員増一カ所、二学童保育室開設。障がい児・者福祉では地域生活支援事業の実施。基本健康診査事業の充実など健康づくりの推進。白雲荘を介護予防拠点として高齢者の運動機能向上の増進など、不安なく子どもを生み育てられ、障がい者や高齢者が安心して暮らせる支援体制の充実に努めます。

## 行政手法について

# クリーン・ネット21

**問** 市長は「平成十九年度は行政評価システムの本格的導入の年であり、全面的な展開の年である」と述べていますが、同システムのこれまでの取り組みと今後の課題について、お伺いします。

**答** 本市では、行政評価システムの導入を十六年度に検討し、その計画を策定しま

した。これに基づき、システムについて職員の理解力を高めるための研修会を開催し、その後は組織としての運用力向上を目的に試験的運用を行いました。その結果をもとに、第五次鴻巣市総合振興計画の策定作業に入り、成果指標の設定や市民意識調査の実施、さらには事業別の予算要求など、さまざまな作業を行いました。

**問** 公共下水道事業の現状と企業会計への移行について

**答** 平成十九年度から公営企業会計に移行する下水道事業会計の予算規模は、三六億八九七四万円となり、十八年度の特別会計における予算規模三〇億八四〇〇万円と比較すると、約六億円

の増加となっております。下水道事業は、その事業規模の本市の財政に占める割合がきわめて大きく、本市の財政運営に大きな影響を与えるものとなっております。このことから、経理の明確化を目的に、地方公営企業法の財務規定等の適応を検討し、十六年度から三力年をかけて資産整理等の準備を進め、昨年十二月定例会において関係条例を上程し、決定しました。

今後の課題は、組織としてのシステム運用力をいかに向上させていくか、また職員全員の意識改革をいかに実現していくか

の二点です。市では、この課題にチャレンジすることを目的として、第五次総合振興計画を推進していきます。

## 花を生かした個性的なまちづくりを

**問** 地域資源である「花」は、単に産業振興や観光のみならず、

「花」は、単に産業振興や観光のみならず、こしだけではなく、環境・福祉・コミュニティ・教育・文化の創造といった観点から、新市の「顔」「シンボル」として活用すべきです。

**答** 「花」は本市の主要産業として、まちの活力を生み出し、心や暮らしに彩りとするおい・安らぎを与えることから、花を活用したまちづくりが必要不可欠と認識しています。

# 鴻巣フロンティア

平成十九年度あら

たに取り組む事業の内容はどうか。

今年度は、荒川堤防に整備してあるコスモス街道を糠田地区へ約一・五キロメートル延長し、荒川総合運動公園・大間近隣公園予定地にポピー畑の整備とあわせて、馬室地区のポピー畑及び麦などしこ畑までをポピーの咲き誇る街道として、花と緑の遊歩道を整備する予定です。また、現在進行中の鴻巣駅東

口A地区市街地再開発事業、北鴻巣駅西口土地区画整理事業、吹上駅北口駅前広場整備事業

は、公園や緑地帯の整備する計画を利用し、四季折々の花々を植栽し「花のまちこうのす」をPRしたいと考えます。

**問** 「花屋のまち」から「花かおるまちづくり」へとダイナミックに施策を展開するため、行政機構の整備はどうか。

**答** 花によるまちづくりは、本市の主要テーマです。これまで、花のオアシス・荒川河川敷花いっぱい・ジャパンフラワーフェスティバル・花のコミュニティ・コスモスフェスティバル・地域さくらまつり・学校花いっぱい運動・フラワーフェスティバルの事業など、いくつかの課で事務分担されています。

合併時に横断的な取組みが必要とのことから、みどり課内に「花普及推進プロジェクト」を設置し、事業を集中させるなど取り組んできましたが、必ずしも有効に機能しているとは言えない面があります。十九年度の組織見直しの中で、より明確な位置づけをしたいと考えます。

## 行政評価システムと健康づくりの推進、子育て支援について

**問** 公募による市民

評価で事業仕分けと経費節減の見直しは。

**答** 経営改革推進プランパトロール委員会により意見を頂いています。将来、総合振興計画全体に拡大し、外部評価システムの機能を担っていただき、経費節減も積極的に進めます。

# 公明党

**問** うんどう遊園設

置推進、基本健康診査の義務付け、温水プール建設の考えは。

**答** うんどう遊園事業は十九年度より一回から二回に増やし、内容の充実に取り組めます。二

十年年度の医療制度改革により、各保険者が健康診査及び保健指導を義務として実施する予定です。温水プール建設は当面困難なため、健康づくり等は既存施設を活用して推進します。

支給する考えは。

**問** 質問の各子育て支援策については、県内各市、他の社保等の健康組合の動向を見ながら、今後研究検討していきます。

**問** 学校教育の総合的見直し  
郷土資料館建設

**問** 小中一貫教育と英語教育を推進し、食育教諭を配置する考えは。また、市内循環バスをスクールバス・福祉バスとして利用してはどうか。

**問** 小中一貫の系統的教育内容を十分検討しながら、統廃合も視野に入れ、研究課題として取り組んでいきます。英語教育では、小学校段階から英語に興味関心や意欲を育成する取り組みをしています。また、栄養教諭の配置を検討していきます。

市内循環バスの利用拡大は様々な観点から調整を行い、検討したいと考えます。

**問** 郷土資料館建設と文化芸術活動の計画は。

**答** 建設は、財政状況を勘案しながら今後の研究・検討課題とします。芸術活動は、芸術文化団体の育成や支援を図り、文化鑑賞機会の充実に向け、芸術文化の招致を図りたいと考えます。

## 革新クラブ

三地域の均衡ある発展は北新宿の資金計画は

**問** 平成十九年度一般会計予算は、前年度比八・三パーセント、二四億八〇〇万円

の増となつていきます。この増額の約九〇パーセントが普通建設事業費に充てられていますが、その多くが継続事業であると見えます。鴻巣駅東口A地区市街地再開発事業、三谷橋大間線街路事業、北

鴻巣駅西口土地地区画整理事業、上谷総合公園整備事業等の鴻巣地域に充てられています。市長は常に三地域の均衡ある発展を口にしていきます。今、吹上地域では吹上中学校校舎の解体、建替完成までに五年かかることへの不満の声が多く、保護者の皆さんから出ています。市長は十九年度予算編成に当たり、三地域の均衡ある発展をどのように考慮したのか伺います。

**答** 今、行われている継続事業は合併後の鴻巣市の土台を築くための最優先事業です。それは

三地域、即ち新市全体の確かな基盤と骨格づくりを進めていく上で最も重要な事業であると認識しています。

新市建設計画における現在継続中の「施策別戦略的・重点的プロジェクト事業」のうち今後実施計画に位置づけていく考えです。また、他の事業では防災行政無線統合事業、広域交流拠点整備事業の二事業を優先していきたいと考えています。それ以外の事業は、現段階では十二年以降の取り組みとなるものと考えています。

**問** 北新宿第二土地地区画整理事業には、まちづくり交付金を十九年度から五年間、区画整理事業に伴う事業費ベースで五億四七〇〇万円を予定しているとのことですが、しかし、十九年度は二〇〇〇万円、率にして三・七パーセントしか予算計上していません。今後、四年間のまちづくり交付金の導入計画はどのようになっているのか伺います。

**答** 街路築造工事、建物移転補償等に五億四七〇〇万円のほか、調整池及び周辺道路整備等に三億九三〇〇万円予定しています。

税制改革の歳入影響と施設の統廃合とは何か

**問** 平成十九年度一般会計予算増は、特定事業に対する国庫支出金や県支出金、市債などの依存財源

による増額です。また市税は税制改正によって地方交付税などの減額分が増えたと見られるべきです。また、経費節減型の予算とのことですが、節減したことでサー

ビスの低下にならないことが重要です。

どのような経費を削減するのか明確にし、相互に理解を深め協力体制を強化する必要があると思います。

**答** 指摘のとおり歳入構成は、市税が約十六億六〇〇〇万円増加になっていますが、一般財源の総額では十八年度と大きく変わるものではありません。住民が納める地方税を増やすことで、地方自治体が必要な財源を自ら確保できることになりました。しかし、市税を徴収できな

れば、財政運営に支障をきたすことを意味し、市税の公平公正な賦課と徴収が大きな課題と考えています。合併特例事業が本格化し、合併特例債の借入れや、まちづくり交付金の活用によって、予算規模が拡大したものと考えています。

**問** 合併の目的や効果を早期に達成するには、支所機能をより充実強化する必要があり、それには、一定の予算付けと権限委譲が必要です。支所の将来的な位置づけ、施設の統廃合などに對する考えを伺います。

**答** 本庁集中方式は、短期間で組織の一体性を高め、効率的な行政組織を実現する上で、極めて有効な手段であったと考えています。しかし、理想とする組織が実現していると言えない状況があることも事実です。第二次経営改革推進プランを行政改革の中心的事業に位置づけ、強力に推進していきます。また、合併により施設の数も一挙に増加しました。今後はス